

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200292		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート幕張 2F		
所在地	千葉県千葉市花見川区幕張町1-5027		
自己評価作成日	令和4年2月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaignkensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和4年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社是である、「お客様・ご家族・地域の健やかな暮らしに貢献する」を目標に、スタッフ一丸となってケアに取り組んでいます。
お客様が孤立することなく、少人数だからこそ、季節にあった行事食作りやおやつ作りを一緒に行ったり、日常の生活でも役割があることで、やりがいや充実感を感じる、健康で心豊かに楽しい生活が送れるようスタッフ間での密な情報共有も徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度もコロナ禍の影響で以前のように外出行事や地域行事への参加はできませんでしたが、ホーム内での生活の活性化に向けて、毎月食事レクを開催して普段のメニューとは違う食事を楽しんだり、感染対策を取りながらホーム内での季節行事を開催したり、利用者の誕生日にはケーキを作りみんなで祝福するなど、楽しく生活が送れるように工夫しています。職員のスキルアップに向けても前向きに取り組んでおり、ホーム内研修の参加率も高く職員も意識高く取り組んでいる様子が見えます。現在ホーム内外の改修工事を進めており、住環境が整備されることで、利用者の安全面及び快適性がより高まることが期待できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔あふれる環境の中、心と体の自立支援を理念としている。カンファレンス時に職員に周知し、利用者に対して理念に沿った支援を行っているかを振り返るように努める。	会社の社是、サービス方針、サービス宣言を事務所内に掲示して常時確認できる体制を築いています。また、よく食べる、よく活動する、よく寝る、よく出すことを合言葉にして、利用者の活動性を高めたいけるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの影響もあり、自粛している。コロナが落ち着いた時は、ご家族面談等実施している。	コロナ禍により地域行事なども開催されていないため地域の方と直接的な交流とまでは至りませんでした。コロナ禍収束後においては地域交流のさらなる充実化を目指しています。この一年間地域とはトラブルなく良好な関係を築いています。	地域の関係者等と築き上げてきた関係性が希薄化しないように、今できる関わり方を模索し良好な関係が今後も継続できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実務経験年数が高いスタッフが在籍しているホームです。お客様が安心して楽しく、生きがいを持って生活ができるよう、スタッフ一同業務に取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面での対応となっている。3ヶ月に1度実施している。	今年度はコロナ禍の影響もあり、書面開催を中心にして実施しています。利用者の状況やホームの運営状況について議事録にまとめています。参加予定者である利用者家族、地域包括支援センター、協力医療機関等の関係者からは事前に意見を確認し議事録を作成しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区の担当者など、分からないことなどは随時連絡を取り助言を受けている。また、区の生活保護担当課や包括支援センターとは、受け入れや利用者の生活支援の為に随時連絡を取っている。	運営上相談事が生じた際には市の担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰ぐことができます。新型コロナウイルス関連ではマスク等の配布を受けたり、生活保護受給者の件でも担当者で連絡を取り必要な指示を仰いでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状況に合わせた介護方法を話し合い、拘束が無いよう努めている。市の実施している身体拘束・権利擁護の研修に参加し、スタッフの意識を高めていくよう努めている。	運営推進会議に合わせて3ヶ月に一度身体拘束適正化委員会を実施し不適切な対応が無いかについて確認しています。現状ホーム内では身体拘束につながる事例は発生していません。身体拘束廃止に向けた研修を毎年実施して全体の意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自身の体験や他者の言葉使い・態度など、気づいた点を申し送り等で管理者に報告、相談し、改善点を見つけるなど「敬意と尊敬」の念を忘れないよう、研修も実施している。		

グループホームガーデンコート幕張(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施している。計画作成以上は、ある程度の知識を有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時までには、本人・家族のホーム見学も含め、グループホームの説明や不安などの相談にのり、時間を掛け説明を行い同意を得ている。なるべく書面を用いて分かりやすい説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に内外の苦情窓口先を記載。ご家族の面会の際は必ず管理者に報告し、職員が意見や要望を聞いた場合は管理者が直ぐに対応する。	家族からの意見や要望については運営推進会議前や電話連絡時において直接確認しています。運営に関する意見は少なく、利用者のケアに関する内容が多くなっています。利用者からの意見や要望等は日常会話から収集し、日々の生活で反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートを作り、スタッフ誰もが気付いた事などを提案出来る。カンファ時に管理者は意見や提案を聞く機会を設けている。また、取締役がスタッフの要望に応じ、面談や意見を聞く機会を作る。	管理者が日常的に職員に声をかけ、日ごろ困っていることや不安なこと、業務や支援に関する要望等を確認しています。現在正社員を中心にサービスの質の向上、事業継続計画(BCP)の作成などを進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員からの話し合い要求には臨時対応し、取締役と管理者では、専用携帯・メールにて連携連絡を行い改善に努めている。出来る限り本人の状況に応じた勤務を考慮し勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がオリエンテーションを行い、業務の流れやマニュアルに沿いながら入居者への介助や対応等を指導している。新しい勤務に就く場合、必ずダブル勤務を組み、指導と引き継ぎを行う。適宜スタッフを認知症実践者研修へ参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が千葉市の認知症ジュニアサポーター講習の協力をしている。その時、他事業所との交流もある。		

グループホームガーデンコート幕張(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会やホームの見学にてご本人の要望に耳を傾け、入居後は本人の生活歴の把握のもと、声掛け・傾聴などコミュニケーションを図り、目配り・気配りにて本人を観察し理解を深めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間を作り、話しやすい雰囲気作りに努め、ちょっとした問い合わせにもスタッフは必ず管理者へすぐに報告し、真摯に対応し具体的対応について家族へ報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを傾聴を中心に、居宅や病院からの情報も加え、当ホームにての支援出来る内容の説明や改善を考慮しながらスタッフがカンファレンスをして最善のサービスを見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、家事の分担や行事(季節のイベント・誕生日会など)と一緒に準備から参加して頂いている。特にイベント準備の際は、利用者の出来る事を探し、一緒に作業を進め、全体でイベントへの意欲を高めるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「アイネット通信」を発行して、日常の生活や状況を職員のコメントにて様子をお知らせしている。また、家族と入居者間を電話やファックスの利用にて本人の状態を伝え、外出・外泊の支援をし、家族と途切れないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具や写真を居室に持ってきてもらう等、馴染みの物を多く取り入れるよう家族に協力して頂いている。家族との外出・外泊への支援にも努めている。また、知人等の訪問もキーパーソンに協力頂き受け入れをしている。	馴染みの人や場所との関係継続に向けた支援ではコロナ禍以前は友人の方の来訪の受け入れや家族の協力を得て馴染みの場所へお連れ頂くなど、利用者の要望を優先してこれまでの関係が継続できるように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ皆さんの顔が見えるリビングでの生活時間を増やし、座席は相性などを考慮して誘導している。		

グループホームガーデンコート幕張(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も手紙や電話等で様子を伺ったりしている。家族の相談等も電話にて対応している。近隣にて家族に会う事もありコミュニケーションに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動を観察し、コミュニケーションを図り本人の意思や希望、入居前の生活状況を考慮して、それぞれにあった個別支援も反映できるようアセスメントを実施しケアプランを作成している。	利用者の思いや意向については日常会話からの収集のほか、ケアプランの作成および更新時に実施するアセスメントにおいて確認しています。抽出した意見や要望、課題等はケアプランに反映し日々の支援に反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やフェイスシートの記入にてご本人やご家族から情報を得たり、入居後は、ご本人とのコミュニケーションの中から情報を得て必要に応じ、家族や友人に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、日常の会話や生活の様子観察を朝と夕の申し送りや連絡ノート・往診ファイルでスタッフ間にて共有し、体調の変化など早期発見につながるよう努めている。また、スタッフの気づきを集めるノートを作り、共有と考えを出し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー・計画作成担当者・看護師の意見をまとめ、プランの見直しを行っている。モニタリングも定期的実施している。家族に対して、プランの見直しや対応経過を分かりやすく説明し同意を得ている。2名の計画作成担当がミスのないように互いにチェックをしている。	アセスメントで抽出した情報、利用者本人、家族、職員の意見を担当者会議で話し合い、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランの進捗については毎月モニタリングで確認し、6ヶ月毎短期目標を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り時に情報の共有に努めている。また、気づきのなかに医療的処置が必要と判断される場合は、医療ノートに記入し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを聞き、ホームにて行える最大限のサービスを提供できるように努めている。場合により、取締役と相談して新しいサービスの必要性も考える。		

グループホームガーデンコート幕張(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用するときは活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の月4回の往診と24時間のオンコール体制にて、本人の体調の変化に対応し、他の受診などについてもご家族の希望に沿うよう協力を努めている。	提携先のクリニックとは往診を通して連携を図っています。今年度提携先のクリニックの変更がありました。主治医とも密接に連携を図りながら24時間連絡がとれる体制を築き、緊急時にも迅速な対応を可能とし必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護師とは連絡が取れる体制を作っている。看護師が協力医療機関との円滑な連絡のために関わっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先や家族と情報交換を行い、退院前には家族の同意のもとムンテラ等に立ち会い、その後、担当者会議を行い退院後の生活について話し合う。また、その後の通院を含めての病院のソーシャルワーカーとの連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応の指針」を提示して、医療行為が日常的に必要な場合について家族と事前に説明している。ご家族へは状況の説明をして、連携医療機関の意思も交えた今後の状況を相談説明出来る場を作りにしている。	重度化した場合や終末期の対応についてはホームでできること、できないことを利用契約の際に説明しています。現状看取り支援は行っていませんが、重度化によりホームでの生活が難しくなった際には、今後の方針を家族も交えて検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや緊急連絡網を職員の目が届きやすいよう常にステーションなどに提示している。管理者・看護師は緊急連絡に対応できるように会社携帯電話を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を年2回、日中・夜間を想定し、消防に計画書を提出・報告を行っている。	年2回避難訓練を計画しています。令和3年度は地震や火災を想定した自主訓練を実施しています。水害状況についてもハザードマップで確認しています。備蓄品についてもホーム内に完備しており、消費期限なども適宜確認して必要時に確認できるようにしています。	今後に向けては、作成義務となった事業継続計画(BCP)についても段階的に準備を進め作成し、災害発生後における運営方針の明確化を期待します。

グループホームガーデンコート幕張(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄介助等での尊厳、プライバシー保護を守る。利用者の特性に合わせた言葉掛けにて誘導や支援を行う事が出来るようにスタッフで話し合い対応を検討し実施するよう努めている。	入浴や排せつ時においては利用者への声掛けや対応方法に十分に配慮し、不適切な対応につながらないように全体で意識して取り組んでいます。現状ホーム内の修繕工事を進めておりハード面の整備によりプライバシー等のより一層の強化も期待できます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定のため、声掛け・傾聴・見守りにて対応するよう努めている。行事日等の希望を聞き、希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や消灯は、個人の状態に合わせて支援している。皆と一緒に過ごすような時には、事前に予定を伝えたり、早めに声掛けを行い対応している。また、拒否のある場合は無理に参加させることはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は利用者自身で選択出来るよう声掛けし、支援している。整髪に関しても希望に沿えるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け配膳を分担したり、季節にあった行事食やおやつ作りを一緒に行ったり、利用者の要望食をメニューに取り入れ楽しく食べる事が出来るように努めている。また、アレルギーや苦手な食事に対しての配慮も行っている。	食事の準備や後片付けの場面では利用者にも声をかけ、職員と一緒に準備や後片付けを進めていけるように取り組んでいます。食事の楽しみに向けては、利用者の誕生日当日や月に一度はリクエストメニューとして食べたいものを提供して楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録観察を行い、一人ひとりの状態の把握に努めている。特に水分量やカロリーには気を配り、味を変えるなど工夫をして補給に努めている。また、必要に応じてムース食やゼリーなどの特別食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導も受けながら、毎食後口腔内の清潔保持に努めている。食後の口腔ケアを促したり介助を毎回欠かさずする。		

グループホームガーデンコート幕張(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、トイレ誘導等の支援を行っている。また、ADLの低下等により、おむつ類の検討を行い、ご家族に相談し、本人の精神的・体力的負担のないように支援する。	排泄については定時の声かけや誘導により、トイレで排泄できるように支援しています。定時に声をかけることができているため、排泄の失敗などを防ぐことができている。排泄状況は個人日誌内に記録しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を取り、便秘間隔を把握。食べ物や水分量に心掛け、適度な運動の声掛けを行っている。また、医療機関の指導を受けて下剤などの調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の要望や体調を見て週2回入浴を行い、入浴中はスタッフの介助にて安全に入浴できるよう支援している。また、好みによって入浴剤や季節を感じれる「ゆず・しょうぶ湯」の提供により楽しんでもらっている。	入浴については週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助について事故が起きないように努めています。現在ホーム内の改修を進めており浴室や脱衣室の環境も整備され安全性が高まることも期待できます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状況に応じて昼寝の時間を設けている。また、就寝前や夜間のラウンドにて室温や寝具の調整を行い、良眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては訪問医や薬剤師に指導を受けている。服薬管理は職員が行い、服薬の変更等は必ず往診事項報告書で確認している。また、日々の変化などを記録して提携医療機関へ情報提供に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせた家事分担で支援している。また、体操や歌などのレクリエーションの参加を促したり、散歩・趣味など気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候の良い日にホーム周辺の散歩や買い物、季節を感じられる場所へ散策、祭りなどイベント会場への参加(徒歩や車での移動)などを行うよう努めています。	コロナ禍の影響もあり今年度は外出や外食行事は自粛しています。今年度はホーム内での生活がほとんどですが、天候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れしたり、近隣にオープンしたショッピングモールまでの買い物なども取り入れています。	

グループホームガーデンコート幕張(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解の下、当ホームが管理しているが、希望に応じて買物等、職員が付き添いながら支援している。また、ご本人で現金を持ちたい方は家族と相談のうえで少額ではあるが持つこともできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望があれば、時間帯などを職員で考慮しつつも、ご希望に添えるように支援する。また、帰宅が遅い家族などには、手紙やFAXを活用してやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気をスタッフが適切に管理し、毎日の清掃で清潔と安全性の確保に努めている。廊下や各居室のドア・フローアール等、季節の花や飾り付け・行事写真の掲示・カレンダー作成を行い、季節を出すよう配慮する。	季節に合わせた装飾品を掲示するなど季節感が感じられるように各ユニットで工夫しています。日々の掃除の徹底や感染対策として手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気も定期的に実施しています。現在ホーム内改修工事を進めており、より一層の環境整備が期待できます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う方が近くに座る等、楽しく生活出来るように、テーブル席やソファ等を配置して配慮している。また、リビング以外に椅子を設けたり、居室で過ごしたい場合は過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて本人が使用されていたタンスなどもお持ち頂いている。危険物以外は持ち物に制限は作っておらず、テレビやラジカセ等を持ち込みの方にもスタッフが捜査の支援をし居室でも楽しめるようにしている。	居室の掃除も定期的に行い清潔保持に努めるほか、居室内のレイアウトについても利用者、家族の意向を大切にしています。馴染み品の持ち込みを可能として居心地よく過ごせるように配慮しています。現在ホーム内改修工事を進めており、より一層の居室環境整備が期待できます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を用いて間違えのないように配慮し、トイレなどの標識を設置している。共有場所にある歯磨き類や靴等は、置き場所に記名してご自身で分かりやすく使えるようにしている。		